

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて ～「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」～

西部教育局
お役立ち情報
令和7年12月号



一人でも多くの子供たちの資質・能力の育成につながることを期待し、令和7年4月文部科学省よりサポートマガジン「みるみる」が作成されました。

「みるみる」は、目の前にいる子供たちが「できるようになった」「分かるようになった」と言える授業づくりに向けて「主体的・対話的で深い学び」とは何か「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」とはどういうものかを今一度、改めて振り返ることができます。

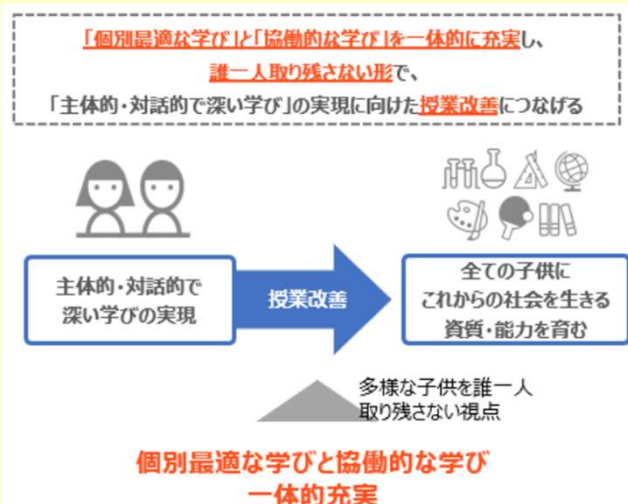
また、特定の指導方法の「型」や「キーワード」を示すのではなく、「主体的・対話的で深い学び」を実現するためのヒントが書かれていますので、これまでの自分自身の授業を振り返り、今後の授業改善につなげていただけたらと思います。



サポートマガジン
『みるみる』
〈文部科学省〉

『みるみる』とは・・・

誰一人取り残すことなくすべての子供たちの可能性を引き出していく「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に向けた授業づくりには、授業を行う先生方の
・子供たちの多様な特性を踏まえ、一人一人の学びの状況を細やかに“みる”目
・これまでの実践を問い直し、これからの時代に求められる授業を俯瞰的に“みる”目
がこれまで以上に大切になると考えられることから作成されています。

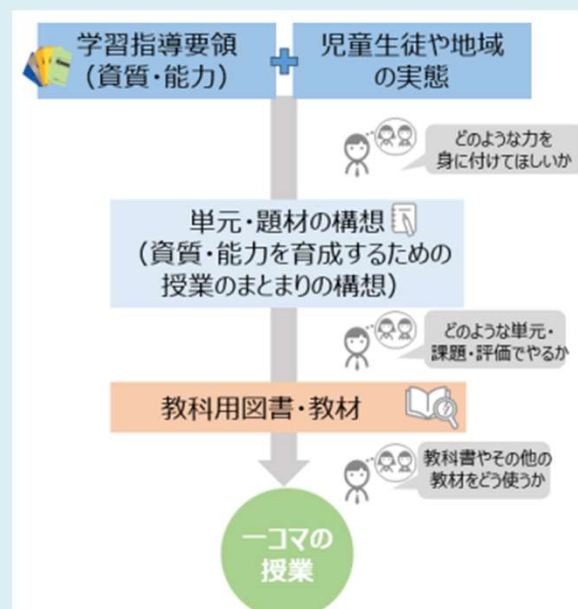


サポートマガジン『みるみる』基本編②より 抜粋

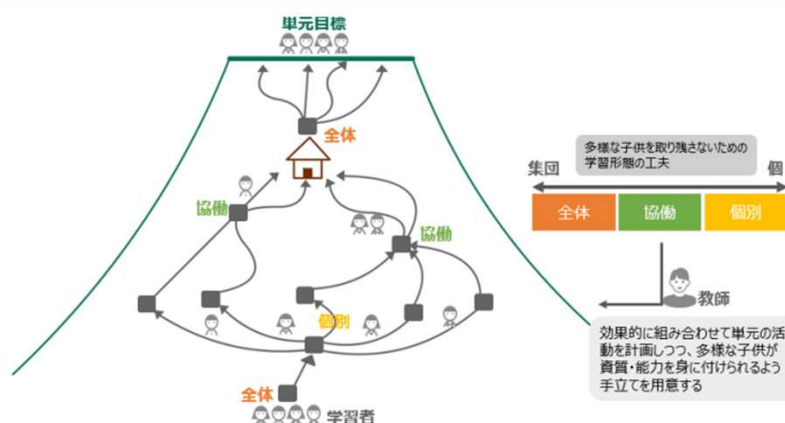
「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」

○「主体的・対話的で深い学び」の実現を通じて
資質・能力の育成を図っていく、ということが多様な
特性を有するすべての子供において実現するという
ことが出発点としてあり、「個別最適な学びと協働
的な学びの一体的な充実」はそのための具体的な
改善の視点であることに留意。

○それ自体が目的化することがないよう、「主体的・
対話的で深い学び」を通じた資質・能力の育成と
いう出発点に立ち戻って考えることが大切。



「主体的・対話的で深い学び」を通じて、すべての子供たちに
資質・能力を育むための授業改善を考える上で、単元を
どのように構成するかというデザインを考えることが重要。



サポートマガジン『みるみる』基本編④より 抜粋